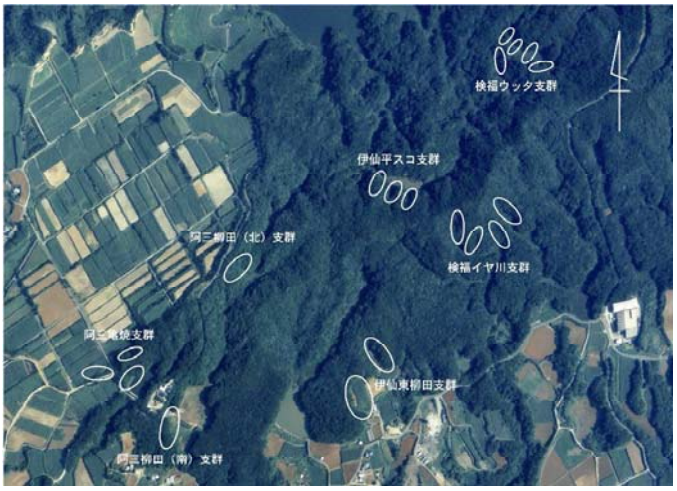
徳之島カムィヤキ陶器窯跡

【所　在　地】大島郡伊仙町阿三
【種　　別】国指定史跡
【指定年月日】平成１９年２月６日



カムィヤキ陶器窯跡の位置

窯跡の発掘調査

11世紀後半から14世紀前半頃（平安時代の終わりから鎌倉時代）に陶器が生産された窯跡である。1983年に徳之島伊仙町の阿三に計画されたため池の工事中に発見され，発見地の字名「亀焼（地元の発音でカムィヤキ）」にちなんで名付けられた。

窯跡は東西約1.5km，南北約800m の範囲に，７支群に分かれて分布し全体で100基ほど存在するものと推定されている。窯体は平面形が「いちじく」状を呈する地下式窖窯である。

ここで生産された焼き物は鹿児島県本土の一部，トカラ列島，奄美諸島，沖縄諸島，先島諸島から出土している。これは距離にして約1200km 以上もあり，生産と流通のあり方を知る上で重要である。

主に食器として利用されたが，器種としては，壺を中心として，鉢，碗，甕，水差しなどがあり日本列島の中 世須恵器と類似して。しかし，焼き上がりの色 調（青みがかった灰色）で，器体に巡らされた波状沈線文，綾杉 状 の叩き文様などの特徴は，朝鮮半島産の無釉陶器にも似ていることから，日本と朝鮮半島双方の系譜を受け継いだ「南島の中 世須恵器」と位置づけられている。